

東京病院でのがん治療を支える部門の紹介



2023.10.28

国立病院機構東京病院

東京病院で治療対応しているがん種と診療科

• 呼吸器がん

- 肺がん
- 胸膜中皮腫
- 胸腺腫・胸腺がん
- 他の胸部悪性腫瘍



呼吸器内科
呼吸器外科
放射線科

• 消化器がん

- 胃がん
- 大腸がん
- 肝がん
- 胆のう・胆管がん
- 膵がん
- 他の消化器がん



消化器内科
消化器外科
放射線科

• 泌尿器がん

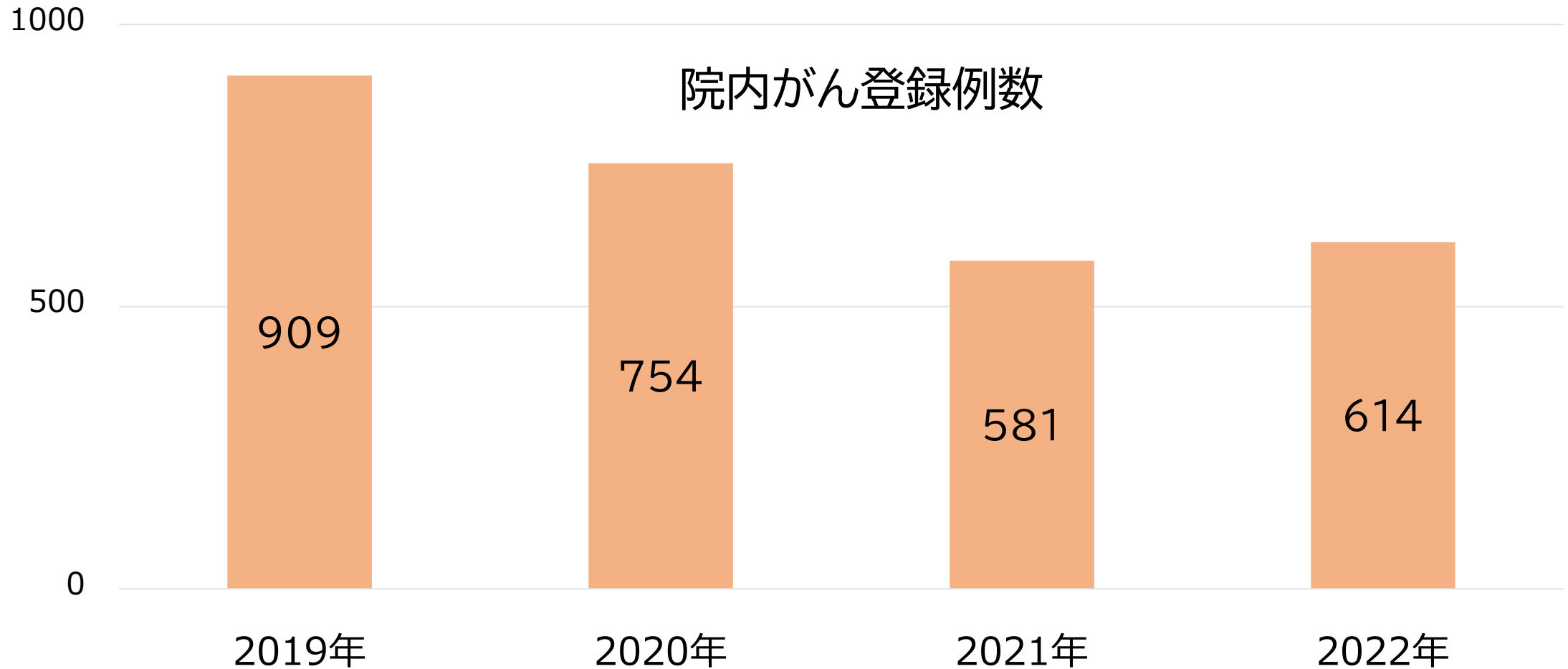
- 腎がん
- 膀胱・尿管がん
- 前立腺がん
- 他の泌尿器がん



泌尿器科
放射線科

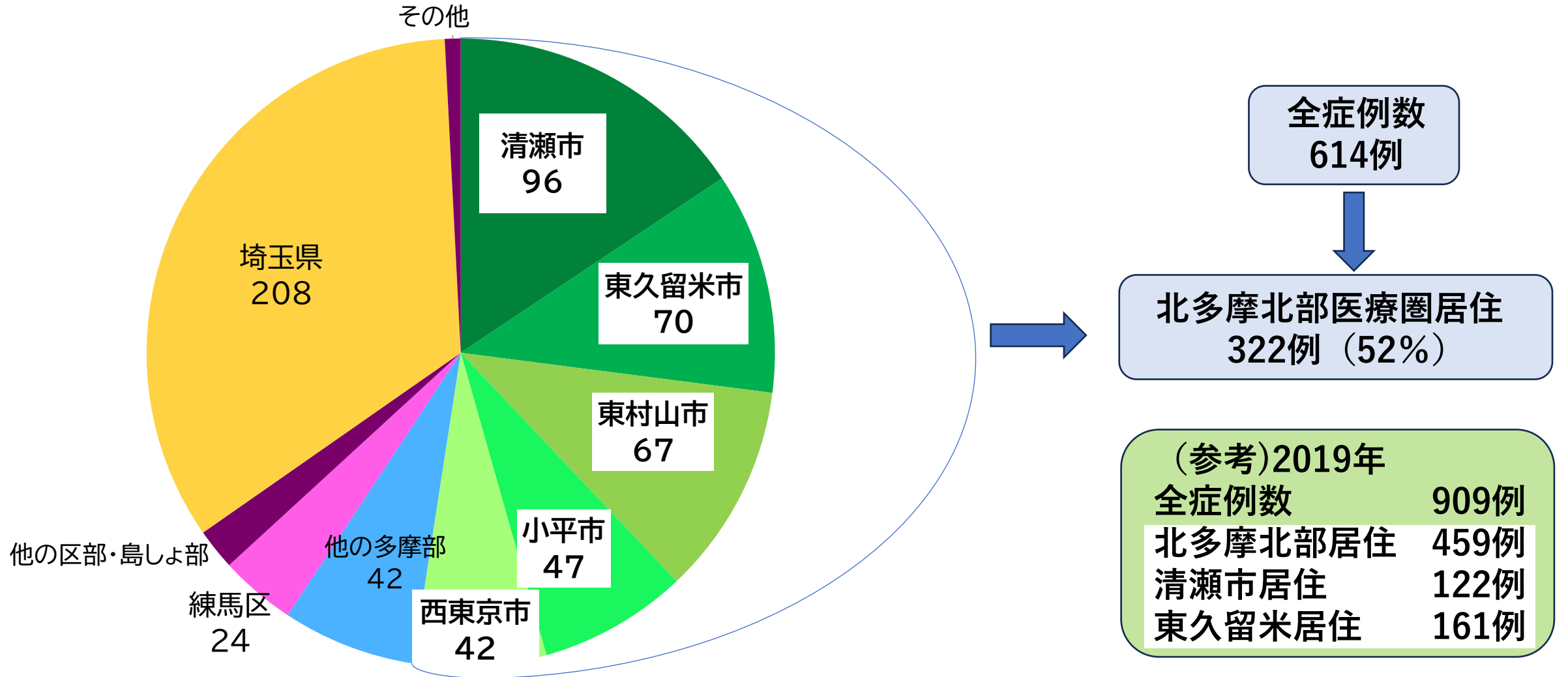
当院では「呼吸器がん」、「消化器がん」、「泌尿器がん」へのがん治療を行っています。

当院の院内がん登録例数の推移



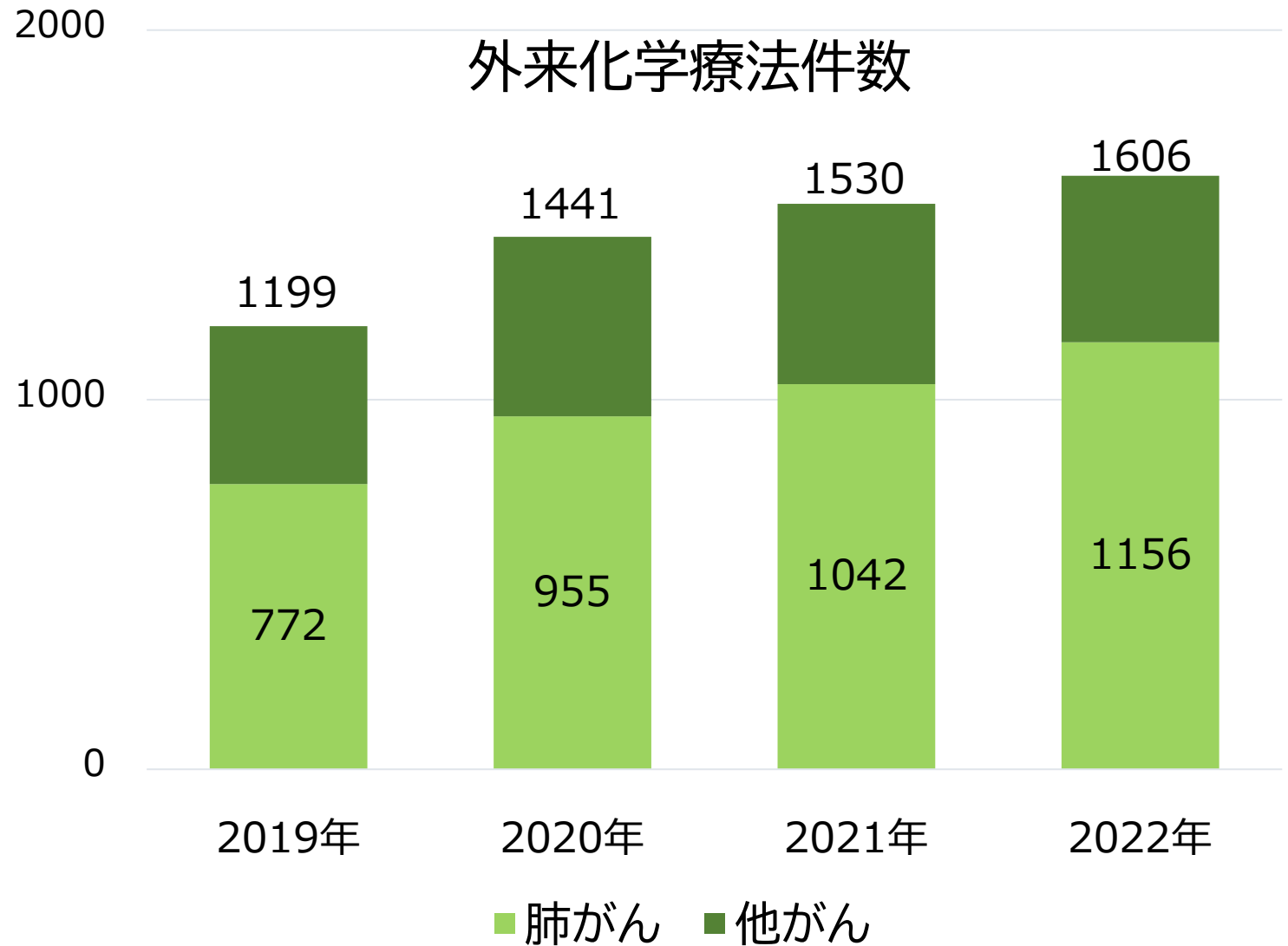
2020年からのコロナ期、患者さんの受診控えや一時期の当院コロナ病床増床対応もあって、当院でのがん治療症例数は減少しましたが、2022年より回復傾向です。

院内がん登録(2022年)における患者さんの居住地



北多摩北部医療圏にお住まいの患者さんが過半数を占めています。

外来化学療法室



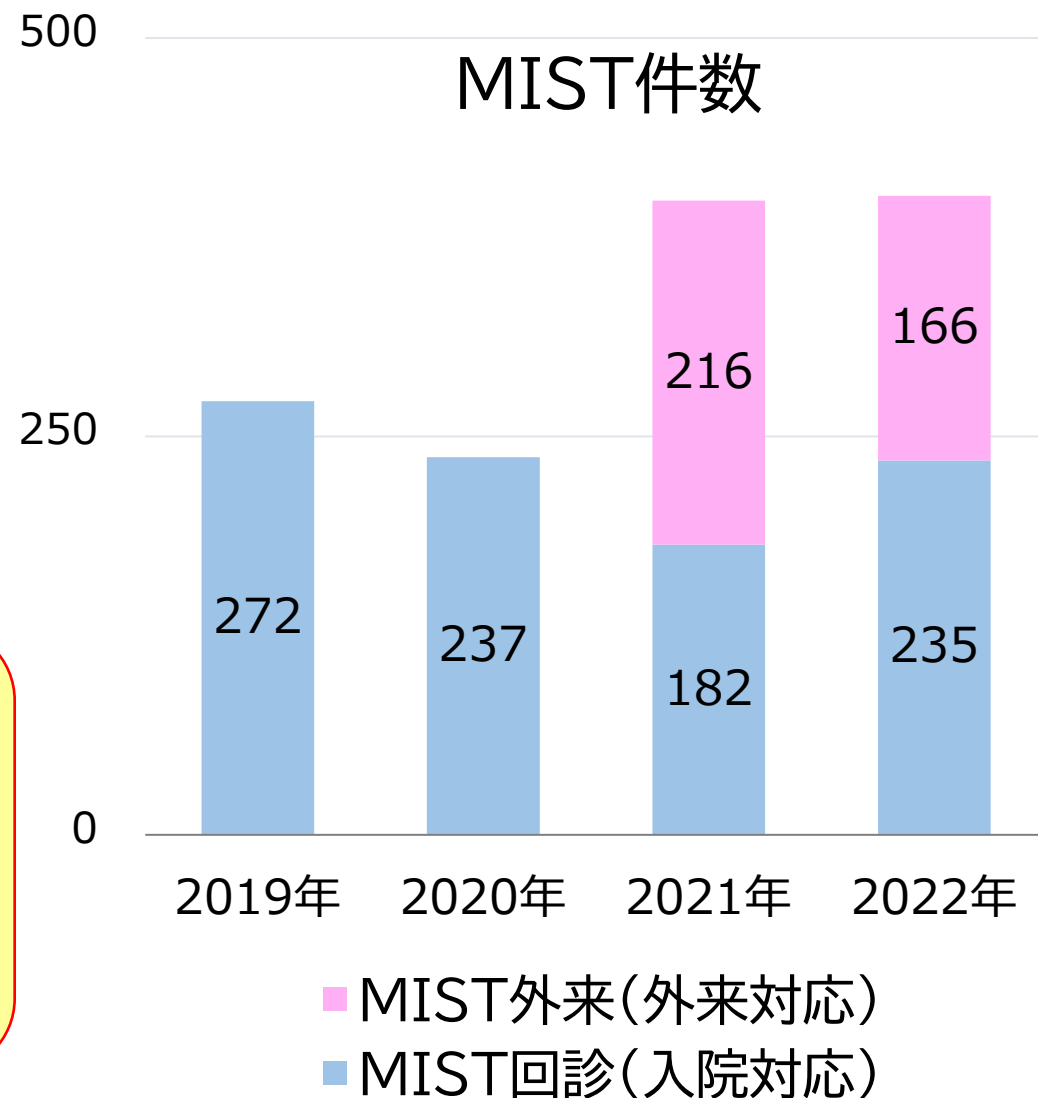
外来がん化学療法療法件数は肺がんを中心にコロナ下でも順調に増加し、需要の高まりに応じてベッド数を増床、2022年には7床、2023年には10床としています。

分子標的治療・免疫治療支援チーム

MIST(molecular-target therapy immunotherapy support team)



分子標的治療薬や免疫治療薬を用いたがん治療の場で、専門的知識を持った医師・薬剤師・看護師からなる多職種チームが、入院・外来のがん患者さんの有害事象に対処すると共に、医療従事者への教育・支援も行っています。



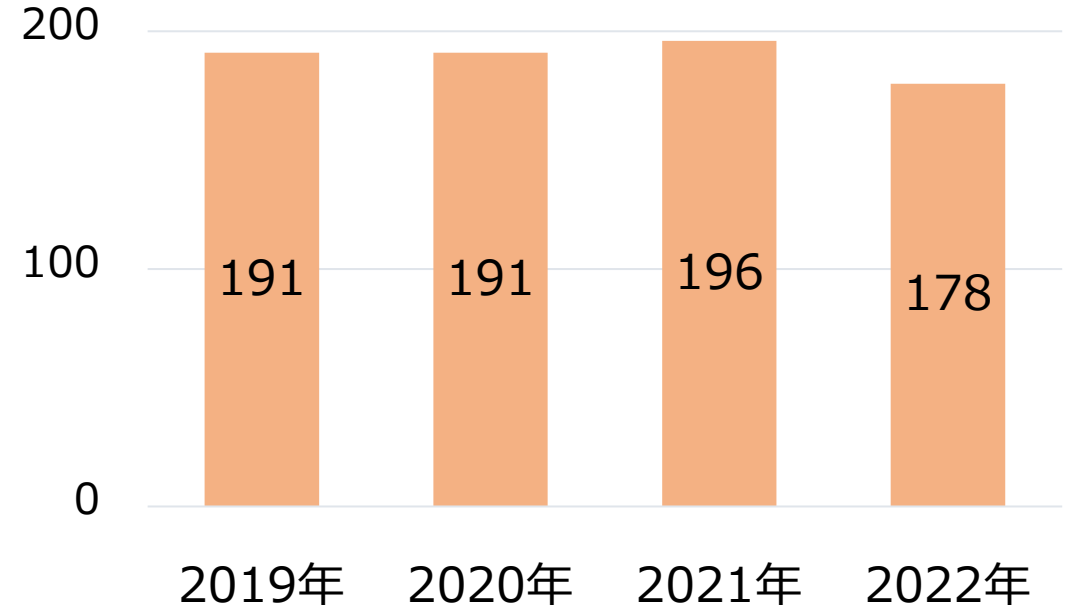
緩和ケアチーム



チームカンファレンス(毎週)

医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、MSW、管理栄養士、歯科衛生士からなる多職種チームが、入院中のがん患者さんの身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を評価、対処すると共に、医療従事者への教育、支援も行っています。

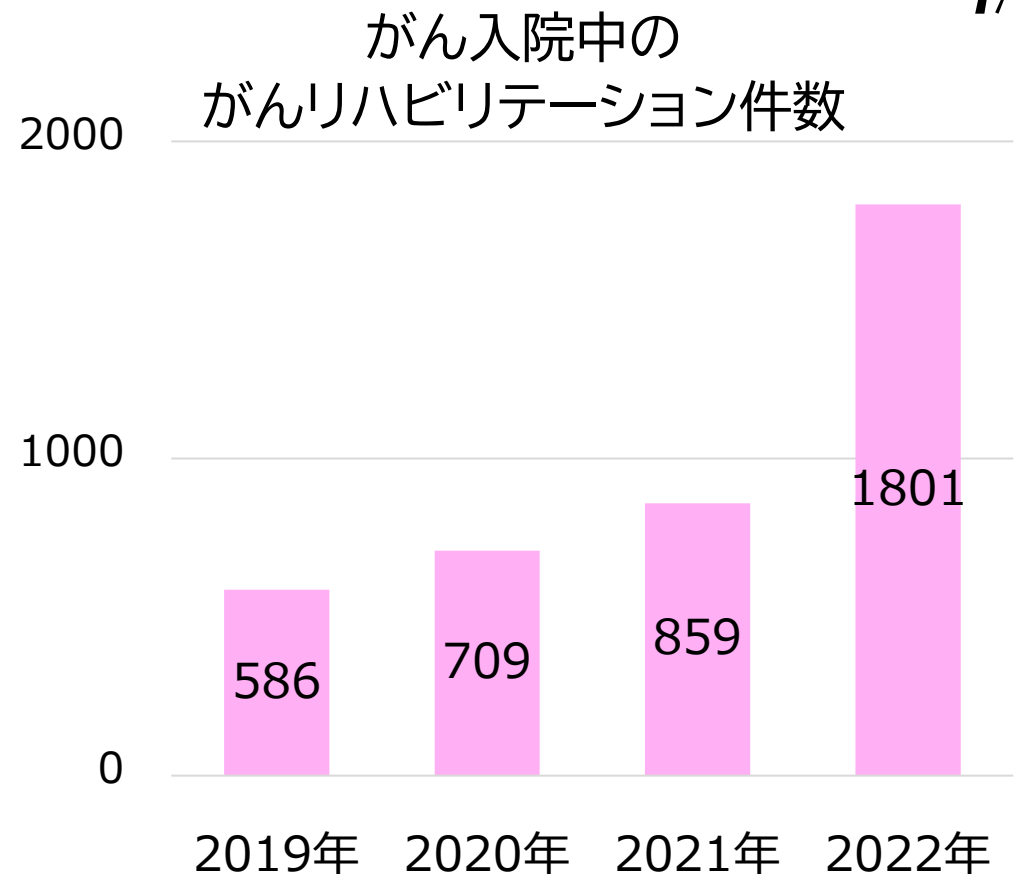
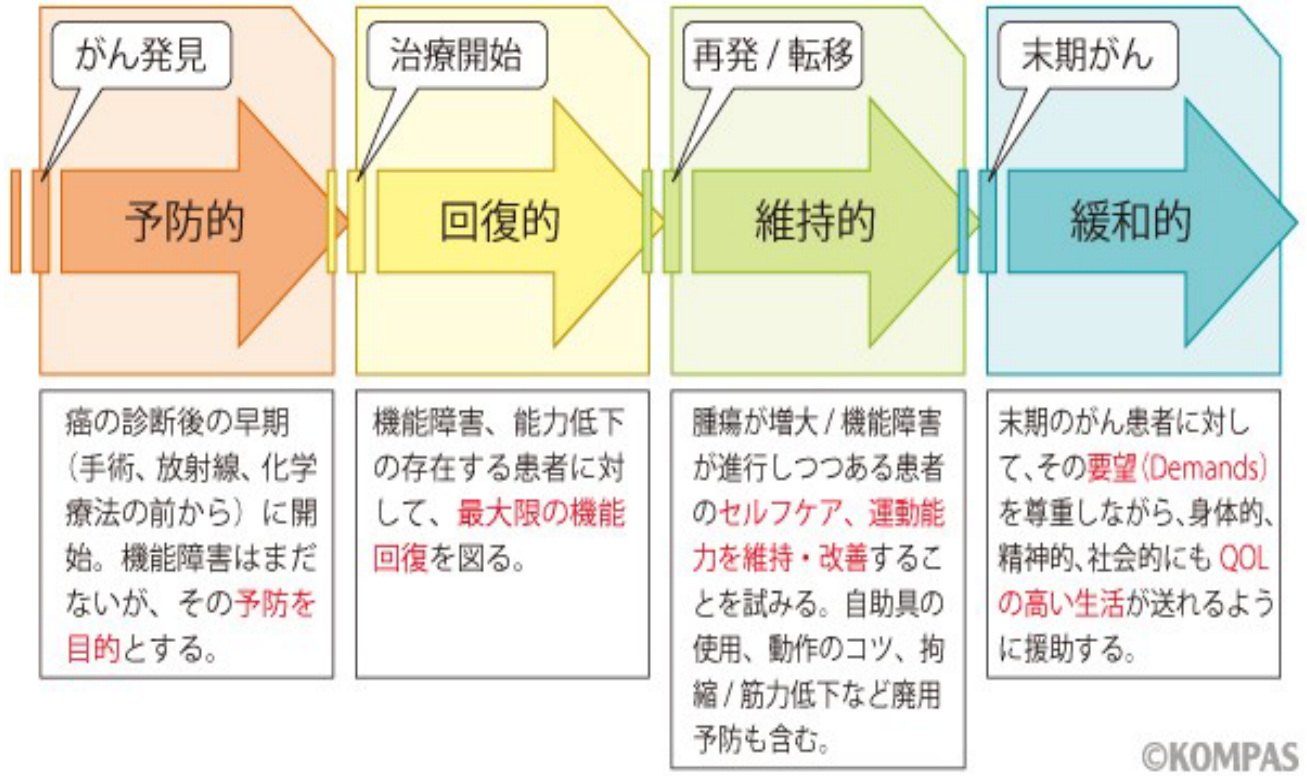
入院中の介入件数



2022年介入内容	件数 (重複あり)
こころ	59
疼痛	58
オピオイドレスキュー	32
今後のこと	28
不安	23
呼吸困難感	23

がんリハビリテーション

Diez分類

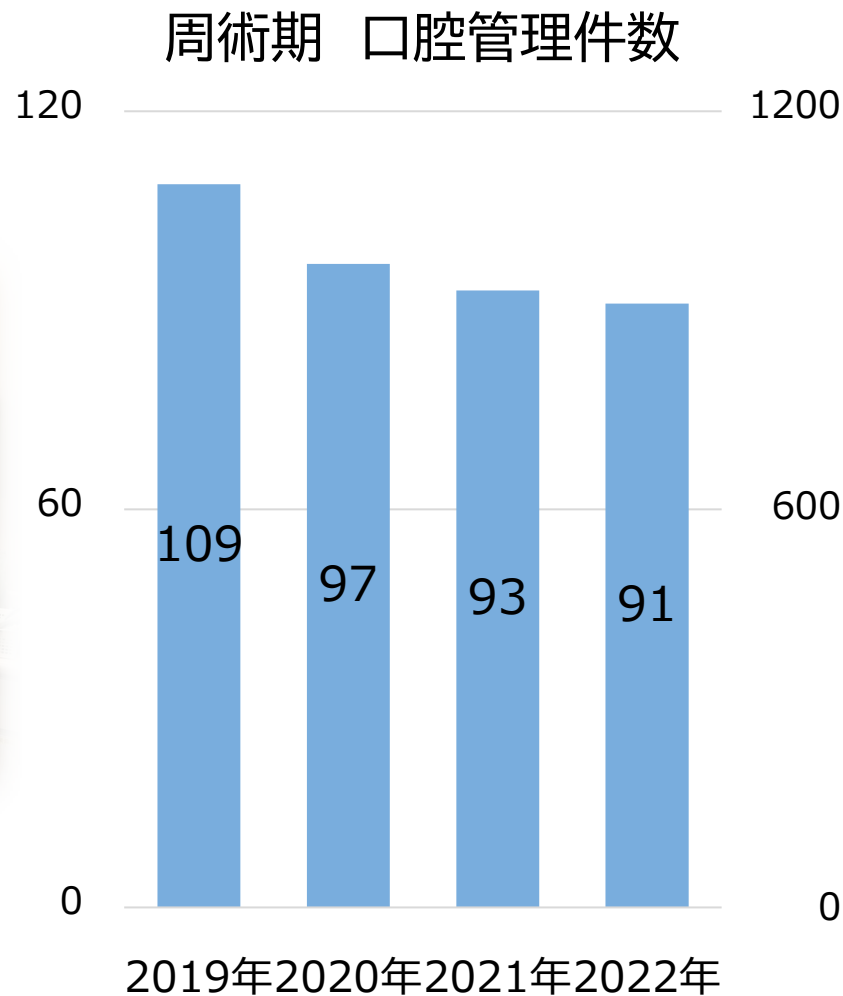


2022年は緩和ケア病棟拡充で、件数が著しく増加しました

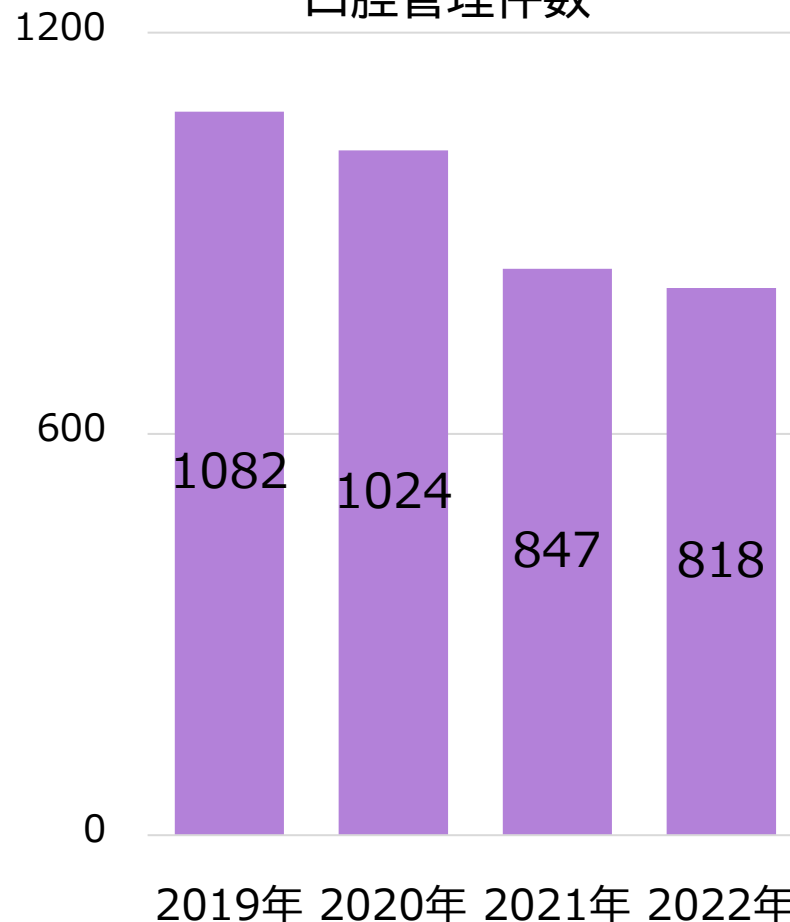
KOMPAS <https://kompas.hosp.keio.ac.jp/sp/contents/000145.html>

がんで入院中の患者さんの病期に合わせて、症状緩和、身体・心理面のケア、機能維持・回復、症状軽減、動作の自立化、QOL向上、療養支援を行っています。

歯科 口腔管理



がん薬物療法・放射線治療中
口腔管理件数

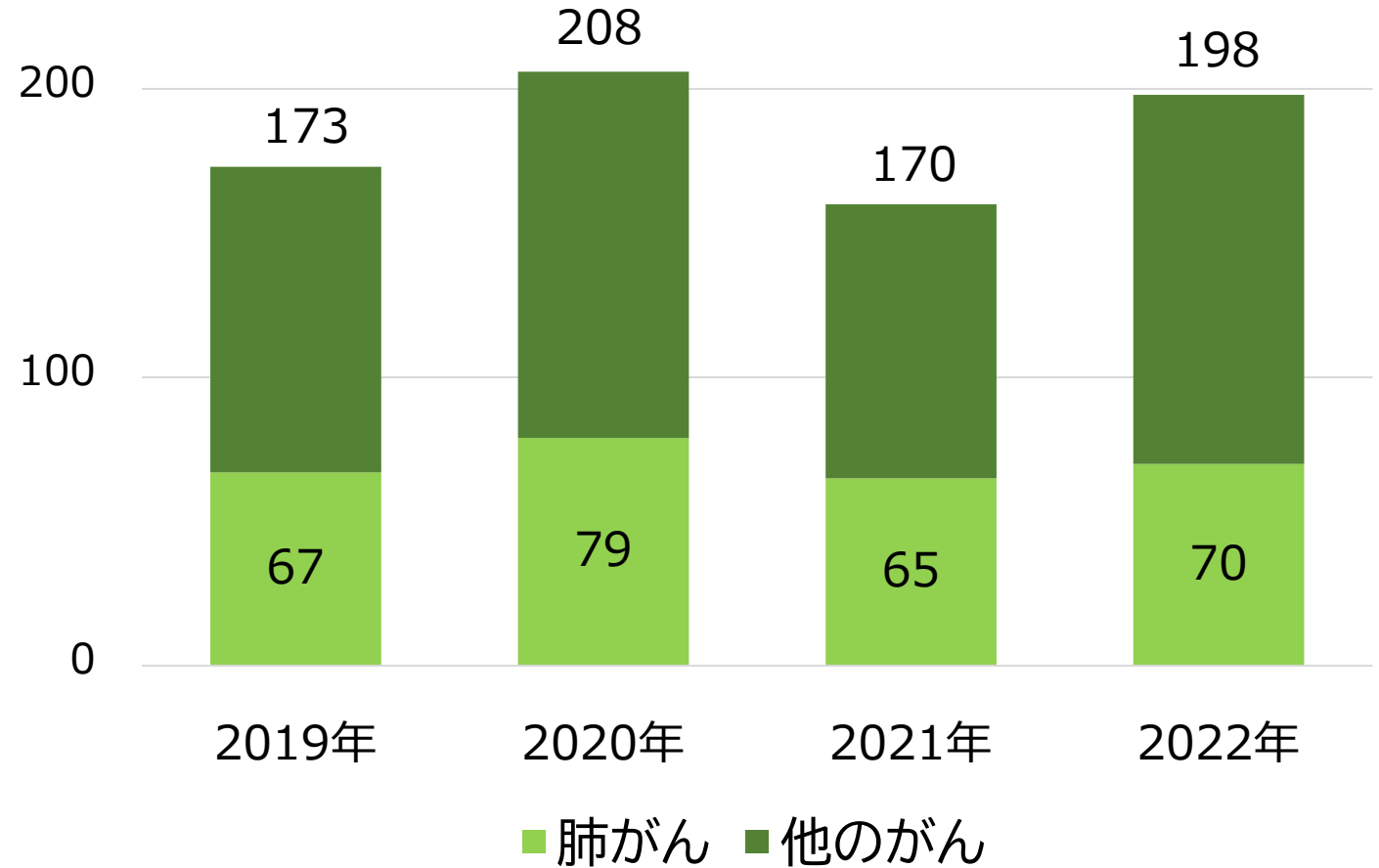


歯科は手術後のごえん性肺炎・感染症の予防に加え、入院・外来を通じてがん薬物療法中や放射線治療中の口腔粘膜炎、口腔感染症の予防、骨修飾薬投与中の顎骨壊死予防を行なっています。外来通院中も主診療科と併診しています。

緩和ケア病棟



入院患者数



こころやからだの苦痛に対するケアを提供する専門の病棟です。症状のコントロールに有用と思われる場合は放射線治療にも対応しています。
ケアしている方々が一時休息できるレスパイト入院も受け入れています。



最後に



東京病院でのがん治療においては、該当する診療部門によるがん本体への治療に合わせて、関連する診療科や多職種チームが、患者さんの有害事象対応やQOL維持を目的とする支援を行っています。